

# 学習アドバイス - 世界史

## ■ 全学統一入試（2月3日）

### 出題傾向

#### 1. 試験の形式

日程	2月3日実施		形式	マーク式	
大問数	4題	小問数	40問（各大問に10問）	試験時間	60分

問題形式	小問数	内容など
語句選択 4 択	20	リード文中の穴埋めが 12 問、下線部に関連する一問一答が 8 問出題された。
組み合わせ選択 4 択	1	ブライフ朝で実施された制度名－内容の組み合わせが出題された。
文章正誤選択 4 択	9	すべて正文判定の問題であった。
2 文判定型正誤選択 4 択	7	すべて下線部の語句に関連する内容説明を判定する問題であった。
地図の位置選択 4 択	2	ニネヴェ、テキサスの位置が問われた。
年表選択 4 択	1	ホルテンシウス法の成立時期が問われた。

概ね過去に出題されていた形式と同様の問題であったが、組み合わせ選択問題は共通テストで出題されている名称－内容の組み合わせ問題と類似しており、最新の入試出題傾向を踏まえている。昨年度の本日程では出題されていなかった地図問題（**1** 問 3, **3** 問 8）と年表問題（**1** 問 8）が出題された。

#### 2. 出題内容

大問	出題内容	時代	地域
<b>1</b>	オリエントと古代ギリシア・ローマ	古代	西アジア・ヨーロッパ
<b>2</b>	イスラームの成立と拡大	古代～中世	西アジア・ヨーロッパ
<b>3</b>	19 世紀の独立運動と戦後の中南米	近代～現代	アメリカ・中南米
<b>4</b>	辛亥革命～戦後の中国史	近代～現代	東アジア

リード文は、概ね教科書に記載されている内容を踏まえたものとなっており、すべて特定の地域における歴史の流れを題材としている。全体として、やや東洋史の比重が大きいように感じられるが、小問単位では東洋史・西洋史がバランスよく出題されている。また、時代も古代から近現代まで幅広く扱われている。出題内容については、イスラーム文化（**2** 問 5）、中国周辺民族（**2** 問 6）、南北アメリカ文明（**3** 問 2）、清代の文化（**4** 問 2）とい

った学習が手薄になりそうな分野からも出題されている。

## 学習アドバイス

本学の世界史は、難問とされるような細かい事項や奇抜な問題形式で問われることはなく、すべて標準的なレベルの良問で構成されている。問題の半数は語句選択の問題であるため、まずは基本的な語句をしっかりと暗記する必要がある。ただし、本日程のように年表や地図を用いた出題形式や正誤選択の出題数も多いため、単純な語句暗記だけでは合格点には満たない。日頃から教科書を読み込んで内容理解を深め、資料集などを活用しながら地図や年表問題にも対応できるようにしておく必要がある。

また、試験形式の項でも述べたように、本日程では共通テストを意識した問題が出題されている。本学の過去問演習に加えて、共通テストの過去問にも取り組むことで問題形式に慣れることができる。インプット一辺倒になるのではなく、アウトプットも適切に行うことが実践的に知識を使いこなすうえで重要である。

## ■ 一般入試（2月7日）

### 出題傾向

#### 1. 試験の形式

日程	2月7日実施		形式	マーク式	
大問数	4題	小問数	40問（各大問に10問）	試験時間	60分
問題形式	小問数	内容など			
語句選択4択	24	リード文の空欄補充が1問、その他はすべて下線部に関連する一問一答であった。			
組み合わせ選択4択	3	17世紀後半から18世紀におきた戦争一条約、スペイン王国成立時の王一王女、1492年に滅ぼされた王朝一首都の組み合わせが出題された。			
文章正誤選択4択	13	正文判定が12問、誤文判定が1問出題された。			

2月3日実施分が出題された地図や年表問題は出題されなかった。語句選択問題は大半が一問一答形式であったが、パリ条約の内容を問う問題（4問3）が出題されている。文章正誤選択は大半が短文から判定する問題であったが、3問10では3～4行の長い文章から正誤を判定する問題が出題されており、内容も緻密な判断が必要なものも含まれていたため苦戦した受験生も多かったと思われる。

## 2. 出題内容

大問	出題内容	時代	地域
1	清代後半の中国	近代	東アジア
2	中世～近代の英仏	中世～近代	ヨーロッパ
3	大航海時代のスペイン・ポルトガル	近世	ヨーロッパ
4	19世紀後半の独露	近代	ヨーロッパ

2月3日実施分と同様にリード文は、概ね教科書に準拠したオーソドックスな内容で、特定の地域・時代を扱ったものとなっている。本日程では、西洋史を題材とする大問が3題あり、西洋史の比重が大きい。さらに、古代史からの出題がなく、近代以降の比重も大きくなっている。地域や時代に偏りがあるため、西洋史や近代史に苦手意識を持っていた受験生は苦戦したと思われる。

### 学習アドバイス

本日程も、2月3日実施分と同様に標準レベルの良問によって構成されている。年度や日程によっては、出題範囲に偏りがみられる場合もあり、特定の地域や時代に苦手意識を持っていれば大きく得点を落とす可能性がある。教科書を隅々まで読み込んで、苦手な地域・時代をつくらないように、まんべんなく丁寧な学習が必要である。

また、本日程のように緻密な判断が必要な正誤選択問題が出題されることもあるため、語句の暗記だけでなく、その語句の内容や周辺知識の学習も不可欠である。高得点を得るためには、教科書に加えて、用語集や資料集も活用しながら、歴史的流れやその出来事の因果関係・意義までしっかりと学習する必要がある。

## ■ 一般入試（2月8日）

### 出題傾向

#### 1. 試験の形式

日程	2月8日実施		形式	マーク式	
大問数	4題	小問数	40問（各大問に10問）	試験時間	60分
問題形式	小問数	内容など			
語句選択4択	28	リード文の空欄補充が2問、その他はすべて下線部に関連する一問一答であった。			
組み合わせ選択4択	4	東ローマ皇帝の名称一書名、ゲルマン人国家、科学者一業績、ヤルタ会談に出席した首脳の組み合わせが出題された。			
文章正誤選択4択	8	正文判定が5問、誤文判定が3問出題された。			

本日程では、他の日程と比較して語句選択や組み合わせ問題の比重が大きく、より知識量が試される内容となっている。2月7日実施分と同様に地図や年表問題は出題されておらず、正誤選択問題も1～2行の短文から正誤を判定するシンプルな問題構成となっている。

## 2. 出題内容

大問	出題内容	時代	地域
①	中国におけるキリスト教の布教	古代～近世	東アジア・ヨーロッパ
②	ローマの東西分裂とキリスト教会	古代～中世	ヨーロッパ
③	世界史における思想の自由	古代～近代	ヨーロッパ
④	第二次世界大戦後の世界	現代	ヨーロッパ・アメリカ など

本日程では、リード文が特定のテーマから幅広い地域や時代を扱うものとなっているが、内容は概ね教科書に準拠したオーソドックスなものである。出題地域は、すべての大問で西洋史が扱われており、西洋史の比重が大きい。また、全体を通して文化史が17問出題されており、なかにはマキアヴェリに属していた国家（③問4）など人物－業績の知識だけでは解答できないものも含まれているため、文化史の学習が疎かになっていた受験生は苦戦したと思われる。

## 学習アドバイス

本日程では、出題内容の項でも述べたように、文化史の比重が大きい。大半の問題は知識が試されるものだが、なかには教科書に記載されている人物－業績の組み合わせだけでなく、人物像や時代背景を問うものもある。単純な語句の知識だけでなく周辺知識も必要となるため、教科書の文化史の項に加えて、用語集の解説文にも目を通しておいた方が良い。

また、④ではアジア・中南米を含む現代史が出題されており、学習が手薄になりそうな分野からの出題が多い。他日程の学習アドバイスでも述べたが、本学の世界史は、さまざまな分野から幅広く出題され、特に受験生の学習が手薄になりそうな所からも出題されることがある。このような問題に対応するためには、まずは教科書に記載されている内容を、注釈や図版の説明文も含めてしっかりと読み込む必要がある。まったく手を付けていない分野が残らないように全範囲を丁寧に学習して欲しい。